

令和3年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473500591	事業の開始年月日	平成17年8月1日
		指定年月日	平成17年8月1日
法人名	株式会社保健科学研究所		
事業所名	グループホームさくら園		
所在地	(〒244 -0845 ) 神奈川県横浜市栄区金井町1600		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年3月15日	評価結果 市町村受理日	令和4年4月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

横浜という場所にありながら、未だに田舎風情の感じられる、自然豊かな環境が特徴のグループホームです。世の中がコロナ禍という事を、ふと忘れてしまいそうな、そんな場所にあります。日頃より地域密着、地域貢献を目指して参りました。今年度は、町内の方へのコロナワクチン接種のお手伝いが出来、恩返しのできたのではないかと考えております。今後も事業所として出来る役割を考えながら、地域の皆様と協力、共存して参ります。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年4月6日	評価機関 評価決定日	令和4年4月11日

### 新型コロナウイルス感染防止の観点から書類調査方式とする 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の優れている点】</b> ◇利用者と家族の思いに沿った運営 新型コロナウイルス感染予防対策の為、面会は短時間で距離を保ち行っている。園に来られない家族には電話、テレビ電話などを利用して利用者と家族の距離が離れないように配慮している。通信「さくら日和」に行事や食事の様子の写真を多数掲載し、職員のコメントを添えて利用者の笑顔を家族に伝えている。コロナ対応で家族の面会が不自由であるが、毎月の心のこもった通信により利用者と家族の距離が離れないように努めている。 ◇充実した医療体制 運営法人の内科医による月2回の訪問診療と24時間医療連携体制、看護師による週1回の健康確認、協力歯科医による毎週訪問診療と口腔ケアがあり、充実した医療体制を敷いている。 <b>【事業所が工夫している点】</b> ◇コロナ禍における地域との連携 事業所理念の一つとして「地域と融合したホームを目標する」ことを謳っている。その一環として、町内会住民の希望者に事業所でコロナワクチン接種を行い喜ばれている。 ◇ヒヤリハットの励行 随時ヒヤリハット報告を行い、事業所内の危険因子の除去に努めている。
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議にて年間の園目標を職員皆で話し合い作成している。	・人格の尊重、家庭に近い環境、自立、地域との融合と社会参加を事業所理念としている。 ・理念を事業所内に掲示し、理念に沿った年間目標を職員全員で検討して設定し、介護実務の基本に位置付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナワクチン接種を園で実施。町内のお祭りや、ご招待してのバーベキューなど軒並み中止になっており以前より関わりが減ってしまいましたが皆様、大変喜んで下さった。	・コロナ禍以前は地域の祭りの神輿休憩場所を提供したり、事業所行事に地域住民を招いて利用者との交流を図っていた。 ・事業所で地域住民のコロナワクチン接種を行ない、地域との連携、交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度行われる消防訓練等、年々地域の方の参加も増え、直接職員や利用者様とかかわる機会が増えており理解を深められています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナにより、運営推進会議も書面開催になっています。施設の取り組みや行事などは毎月のお便りの写真を増やす等工夫し、わかりやすく報告しています。	・地域住民代表(町内役員、民生委員)、家族代表、区職員、ケアプラザ職員、事業所職員を構成員とし、2か月毎に運営推進会議を開催して情報交換、意見交換をし、アドバイスを得ている。 ・現在はコロナ対応で書面会議方式にしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き室が出た際、区役所、地域ケアプラザへの連絡を密にし、連携が取れるよう努めています。	・区職員、ケアプラザ職員と日常的に連携をし、諸行政手続き、情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	転倒リスクがある利用者様にはセンサーを使うなどし対応している。身体拘束の内部研修を行いすべての職員に周知徹底を図っている。	・法人開催の身体拘束適正化委員会(年4回、管理者出席)の結果を事業所全職員に周知している。 ・身体拘束適正化に関する事業所内研修を年4回行い、身体拘束になる行為の理解を深め、実務への反映に努めている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の年間課題の1つとしてユニット会議での学習や自己学習を設け虐待防止への徹底を図っています。	・虐待防止マニュアルがあり、年4回の内部研修、毎月のユニット会議で何が虐待に相当するかを理解を深めている。 ・実務で不適正な言動を見かけた際は管理者がその場で注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在両ユニットで5名利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には契約書を確認しながら、料金改定時にはご家族様に新旧の料金表を送付しお便りを送付。質問等受け付け理解、納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度実施していた運営委推進会議もコロナの影響で実施ができないうえ、書面での確認となっています。コロナ禍でも出来る行事を行い、お伝えしています。	・コロナ対応で家族の来訪が制限されているので、主に電話で意見や要望を把握している。 ・運営に関する要望についてはユニット会議で検討し、可能な内容があれば実施すべく努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々の申し送りにて話し合いをしています。職員同士で話し合った内容等は業務に反映出来る様努めています。	・日常の職員間や管理者との会話、ユニット会議を通じて職員意見を把握し、可能な提案は実現すべく努めている。 ・業務流れや休憩時間の変更等に関する提案があり、業務に反映している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声を聞き、職員1人1人の特技や能力を生かせるよう仕事配分を行い働きやすい環境を整えている。	・法人の就業規則に基づき、ワークライフバランスに配慮した適切な人事管理に努めている。 ・職員の資格や職位による給与水準が法人で制定されており、職員各自の向上心を促進している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定表を作成し、内、外部研修に参加することで質の向上に努めている。又、無資格者には資格を取りに行けるようにシフト調整を行っている。	・法人、事業所が主催する年間研修計画に職員が参加して、様々な知識習得、実務への反映ができる環境を整備している。 ・職員は法人の研修に参加し、又、年4回の人事考課の評価もあり、向上心を持ち自己研鑽をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナもあり施設間の行き来も制限がかかっている為、以前のように系列GHへ出向く事は少なくなりました。管理者会議にてGHでの取組みなど意見交換を行いサービスの質の向上に繋げています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は必ず先方に出向きご本人様に日頃の様子などを伺っています。ご家族様または入院中の場合、病院関係者よりお話を多く伺い、入所後、園での生活がスムーズに行えるよう話し合いの時間を大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の要望や、これまでの経緯などを聞き、園ではどのような対応が出来るか話し合いを行っている。ご本人様の様子は月一回のお便り、さくら日和にてお知らせしたり要望等にも話しやすい環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と良く話し合いを行い、可能であればご本人様にも施設見学をして頂いています。情報収集に努めご本人様にあった提案ができる様努めています。（新型コロナウイルス感染予防の為見学は短時間にて行う）		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに全く違う場所、違う環境で過ごされてきたご利用様方。何事もなく馴染める方もいれば不安で仕方ない方もいらっしゃいます。職員間で連携を取り、情報の共有をしながらご利用者様一人一人が自分らしく過ごせるよう努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染予防対策の為、面会は短時間&距離を保ち、行っています。園まで来れない方はテレビ電話にて面会を行っています。ご利用者様が安心して心穏やかに日々過ごせるよう努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出の制限はありますが、ご利用者様との関係が途切れないよう努め友人、知人の電話や手紙のやり取りなどは積極的に受けています。	・コロナ対応で事業所内での面会は制限があるが、必要に応じ電話、テレビ電話、手紙を通じて馴染みの人との関係継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用様の日頃の様子や個々の状況を常に考え、席替えなども行いコミュニケーションが深まる関わり方を心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があれば退所後においても他施設への面会や訪問をさせて頂いています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の声掛けや日頃の会話の中にみられる、ご利用様の表情や言葉等で、ご本人様の意向を組み取れるよう努力している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対応で家族の面会は制限されているが、電話等で家族から本人の思いや希望を聞いている。</li> <li>・日常会話、入浴など寛いでいるときに意向や希望を聞いている。</li> <li>・表出困難な利用者の場合は、表情、仕草等から思いを察して本人に確認している。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ずご家族様に十分な話し合いの時間を作って頂き、入居後も少しでもご本人様の様子の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃から申し送りの徹底、情報共有を心がけ、利用者様が安心安全な1日を送れるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々記録しているケアプランやモニタリングにて、その日の様子や状態をチェックさせて頂き、次回のプランへ繋げられるようにしている。	・月1回のケアカンファレンスに可能な職員が参加し、モニタリング結果を確認しながらケアプランの見直しをしている。 ・ケアプラン変更時は家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様一人ひとりの意向を聞きながら、気づきや様子を職員同士で話し合う機会を持つようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近年、お看取りを希望される家族が増加して参りました。背景にコロナが関係しているものと思われませんが、時代の変化に合わせたニーズに柔軟に対応して参ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とのふれあいを大切にしています。日頃から園での催しに誘致しています。(バーベキューやクリスマス会)、大家さん所有のみかん畑に毎年ご招待頂きご利用者様だけでなく職員も収穫させて頂き楽しい時間を過ごさせて頂いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、内科医による往診を受け又、必要に応じて他病院との連携医を図っています。	・月2回の内科医、月1回の歯科医の訪問診療、週1回の看護師の健康チェックがあり、内科医との24時間医療連携体制がある。 ・他専門医を受診する場合は家族が付き添うが、緊急時は事業所職員が支援することがある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて園とナース間の報告ノートを設け報告ノートのほかに職員間のメール等で処置や情報、指導を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には利用者様の現状を把握し、担当ドクターやナースから話を聞く機会を多く作り対応している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルは家族の要望が増えており、それに応える機会も増えました。それに伴い、病院との連携もスムーズになってきています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の「重度化対応指針」があり、入所時に家族と本人に説明している。</li> <li>・重度化、終末期の際は、家族、医師と話し合い、適切な対応をとっている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やマニュアルにて習得。消防訓練時に応急処置、AEDの実践訓練も行っています。救急時のマニュアルは電話の側に備えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域の方が参加しやすい休日に地域の消防団との合同訓練を行い、協力体制が密に取れる様、関係づくりを構築している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間想定を含めて年2回の避難訓練を行い、消防署員のアドバイスを受けている。町内会と「消防応援協力に関する覚書」を交わし、災害時の相互協力体制がある。</li> <li>・水、食料の備蓄3日分、防災用品を3か月毎に内容確認している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「親しき中にも礼儀あり」の精神で声掛けや言葉使いにも細心の注意をはらい失礼がないように対応させて頂いています。	・職員は一人ひとりの人格を尊重し、利用者の気持ちを大切に対応している。 ・内部研修や会議でプライバシーを尊重し、言葉かけや介助支援時の行動に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様に無理強いるようなことはせず、自ら進んで取り組みに参加できる様支援していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用様のペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。ご本人のその日の気持ちや体調を優先し自宅にいた時と同様、穏やかに過ごせるよう、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えや起床時の着替え等、ご自身で行うのが難しい方は一緒に揃えるようにしております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんが楽しみにしているお食事なのでその方に合った食事形態にして嚥下体操も食前に行い美味しく楽しく召し上がって頂けるよう努めています。	・メニューや食材は外注し、職員が利用者に合わせた食事形態(刻み、ミキサー、とろみ等)で提供している。 ・食事中は美味しく楽しい食事になるように職員が支援している。誕生日や行事に好みの食事を取り入れる等、食事に変化を取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分の摂取量を表にして日々管理を行い減少傾向がある利用者様はドクターに相談をし、栄養補助飲料を処方して頂く等配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科の診療を受けている。毎食後のうがい口腔ケアを行い、食事前の嚥下体操は必ず毎日実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、時間で声掛けを行うよう心がけています。全介助、テープ式の方は時間で支援している。	・排泄のリズムを把握・記録し、さりげなく声かけし、トイレでの自立排泄に向けて支援している。 ・車イスや動きがスムーズにできない利用者には、移動しやすいように周囲に目配りし、また着衣を手伝っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課のラジオ体操、園外への散歩にて身体を動かして頂き、排便がスムーズに行えるように支援しています。必要な場合には薬の処方も頂いています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回は入浴できる様に対応しているが、体調やタイミングが合わなかったご利用者様は、翌日に変更したり清拭や足浴で清潔を保てるよう努めています。	・週2回の入浴を基本とし、利用者の気分や体調を考慮して日を変える等、柔軟に対応している。 ・入浴剤、季節の柚子湯や菖蒲湯を楽しんでいる。 ・脱衣場はエアコン稼働してヒートショックを防止している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は体操、散歩、午後は歌やレクリエーション、入浴以外の利用者様は足浴(3名)を実施し水虫などの病気予防、清潔を保持しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量、間違えのない与薬を行なう為、個々に薬のチェックシートを使い、必ず2名の職員で確認作業を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	周りの方から褒められたり声掛けされるだけでも、ご本人様はやる気を出して下さるので、新聞折りなどの作業を手伝って頂いています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだまだコロナによる行動制限が続いていますが、ADL低下防止の為、日々の散歩はなるべくして頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好天時には車椅子の利用者を含めて、可能な限り散歩や外気浴を励行している。</li> <li>・コロナが終息すれば、近隣の買い物等に職員が付添い支援する予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分転換と体調維持のために、散歩や外気浴、事業所内歩行や体操を継続することが期待されます。</li> </ul>
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失などのトラブルも懸念される為、入居の際にご家族様に説明させて頂き、ご理解ご協力を頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からのお手紙やお電話は積極的に取り次がせて頂いております。字や絵の書ける方には、絵手紙をご家族様へ送らせて頂いております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるような、飾りつけをしています。居室の温度調節や、時間でチャイムが鳴るよう設定し、リビングの空気の入替えを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居間は窓が大きく、畑、竹林、樹木等を眺めることができ開放感がある。季節感を感じる飾りや利用者の作品や行事の写真を掲示して寛げる雰囲気になっている。</li> <li>・エアコン、換気等により、温湿度管理をしている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方が多い為、レクなどの声掛けをし、皆様で楽しい時間を過ごせるよう努めています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、なるべくご本人様を使用していた馴染みの物や、思い出の品をお持ち頂けるよう働きかけている。ご家族様に相談し、本人の居心地が良くなるよう心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコン、クローゼットを備え付けている。利用者は使い慣れた机、椅子、テレビ等を持ち込み、家族の写真を飾り、居心地よく過ごせるようにしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境を、ご利用者様の身体状況に合わせて整えています。ベッドの手すりや、居室の間違いないように、お名前を表示しています。		

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	うぐいす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、年度の初めには園の目標を玄関に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より地域との関りを重視しています。今回は、町内の希望者にコロナワクチンの接種を行い、大変喜ばれました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内消防団との合同訓練は、毎年恒例となっています。今年も予定していましたが、コロナ禍の為、中止になっています。実際の訓練で認知症の方と交流できる唯一の場ですが残念です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナにより、運営推進会議も書面開催になっています。施設の取り組みや行事などは毎月のお便りにて報告しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政より、入居の相談を頂きます。満床の際は、系列の事業所を紹介する等、連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に4回の内部研修にて身体拘束の研修を行っています。その際、提出して頂いた報告書にて、内容の理解を判断しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同じく年4回の内部研修にて学び、虐待が起きないように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は両ユニットで4名ご利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネージャー、ユニットリーダー同席の上契約条項を確認しながら契約をしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染予防の為運営推進会議は書面にて行っています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやユニット会議等、職員の意見や提案を出してもらい工夫した事などを介護現場で反映できるよう努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課測定を実施。日ごろの取り組みや業務に対し向上心を持って働けるよう自己評価や面談を行い業務に反映できる様努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナ感染予防の為現在外部研修には参加できていないがオンラインでの研修や内部での研修に参加することで質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナ感染予防の為、系列のGHに出向く事が出来ない為交流が出来ず残念です。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様の生活歴など情報を確認し入居後どのような援助支援が必要か？確認しています。入居後は様子を見ながらご本人とコミュニケーションを取り信頼関係を築けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限りご本人様とご家族様の想いに添った支援提供に努めている。月に一度「さくら日和」手作りのお便りにて利用者様達の様子もお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様とよく話し合いご本人様とご家族様の要望に沿う事が出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの尊厳を守り日々いきいきと生活できる環境づくりに努め利用者様が出来る事などは声かけし楽しみながら行えるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染予防の為面談等に行えない為オンラインにてテレビ電話が使えるよう対処しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご友人からのお便りや電話等は取り次がせて頂きこちらからお便りを出したり面会できないご家族様とはオンラインでテレビ電話をしてもらうなど出来る事を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地良く過ごして頂く為トラブルが起きそうな時等はスタッフが間に入り利用者様が安心して過ごせるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用様が退所された後も機会があれば他施設へ訪問や面会をさせていただく事もあります。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしさを大切に職員間でも情報共有をし介護支援を行えるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時、これまでの生活歴やご本人様の状況を把握できるよう努め職員間で情報共有し支援介護に努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録やアセスメントにて一人ひとりの状況把握に努め、支援、介護出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日課のモニタリングにて、ご利用者様にの一日の様子や状態を把握し、ユニット全体にアセスメントを取り、ケアプランを作り上げるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを活用し、ご利用者様の日々の変化を職員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近年、お看取りを希望される家族が増加して参りました。背景にコロナが関係しているものと思われませんが、時代の変化に合わせたニーズに柔軟に対応して参ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のみかん狩りに毎年参加させて頂く等、地域住民となり、ここで楽しく充実した生活が送れるようお手伝いさせて頂いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診と、月1回の歯科往診、週1回の看護師の健康チェックを行い、医療の目が行き届く様にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康チェックの際、専用の送りのノートでご利用者様一人一人の処置や報告を共有している。また、その送りノートは医師とも連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ず、管理者とリーダーが医師の面談に同席しています。その時の問題点や注意点などを病院と話し合い、退院に繋げています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルは家族の要望が増えており、それに応える機会も増えました。それに伴い、病院との連携もスムーズになってきています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の内部研修や、町内との合同訓練のAEDや応急処置などでスキルアップを重ねています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団と定期的に消防訓練をしています。町内・園・消防署の覚書があり、災害時の協力体制が図れています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族のように思い、相手を敬う気持ちを忘れない。そんな声掛けをさせて頂く様、職員に指導をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様は十人十色です。無理強いすることなく自己選択できる場面を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用様に合った作業や、レクリエーションなど、楽しんで行えるものを無理せずやっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの日課や習慣を大切に、その人に合った身だしなみやおしゃれが出来る様、支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事は最も楽しみにしている時間の一つです。美味しく楽しく食事が出来るように、個々に合わせた食事形態で提供させて頂いています。また、毎食前の嚥下体操も欠かせません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーなどは、栄養士が献立を管理しています。水分は、職員が摂取量を記録し、一日のトータルを計算して出しています。ご本人様が好きな物（飲みやすい物）を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操で嚥下の機能低下を抑制し、月に一回の歯科検診で口腔内の清潔を保っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりに合ったおむつのサイズやパットのサイズをユニット会議で検討し、コストや使い勝手などを見直ししています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩やラジオ体操などで体を無理なく動かし、水分を多く摂るようにする等、自然に排便が促せるようにしています。また、便秘の際は、適宜医師に指示を出していただいています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一日3名の入浴を行っていますが、ご本人様の気分が乗らない時は無理をすることなく、次の日に変更する等、臨機応変に対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中のラジオ体操やお散歩、午後はレクリエーションや足浴等で、日常的な動作で安眠につながるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェックシートを用い、職員のダブルチェックにて誤薬を防ぐ。服薬時にはスプーンを使用し、飲み込みの確認まで職員が行うようにしている。また、チェックシートのファイルには個々にお薬の説明書が挟んであり、服薬の際確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前の「いただきます」や「ごちそうさま」の日直を設け、共同生活の中でご利用様に張りを持たせている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだまだコロナにより行動制限が続いていますが、ADL低下防止の為、日々の散歩はなるべくして頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様同士でトラブルが起こらないよう、入居の時点でご家族様にご説明をし、ご遠慮いただいております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は基本的に自由です。ご希望があればいつでも取次ぎさせて頂いております。最近はオンラインもご用意させて頂いていますが、なかなかWi-Fiの環境が整わないなどで、実際のご利用はあまり多くはありません。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	園での行事等の写真をユニットの廊下に掲示させて頂き、雰囲気をやや和やかにしています。ご利用者の居室は室温に注意して快適に過ごせるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で横になったり、リビングでご利用者様同士仲良くお話されたり、居心地の良さを感じられるように、思いおもいに過ごしていただいています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	習慣や、なじみの物を置いていただけるようにし、今までの生活とかけ離れたものにならないようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名前のプレートを廊下に下げたり、引き出しにテプラを貼るなど、認知症の方が不安になりにくい工夫をしています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさくら園

作成日 令和 4年 3月 15日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	48	コロナ禍にて、なかなか気軽に外出ができない時代となってしまいました。まだまだ不安が残りますが、遠出しなくても気分転換の出来る何かを提供したい。	散歩以外に、皆が楽しめるレクリエーション等の行事。もしくは、日課になるような物を考える。	外気に効率的に触れる事ができ、且つ、清潔保持にもなる「足湯」の設置。今では日光浴もでき、一石二鳥の楽しみになりつつある。今後も定期的の実施して行く。	6か月
2	51	コロナによる面会の制限などで家族が寂しくならないよう、電話やお手紙での交流を続けていきたい。また、オンラインもあるが、実際に利用できる家族は少ない。	オンラインを身近な物にする。又はそれに代わる何かを見つけ出す。	職員と考えた結果、デジタルの時代からアナログに戻り、家族との「交換日記」を始めてみようという事になりました。書くことが困難な方は、職員が補助をしていきます。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。